

大活躍！

特殊管ワールドへの誘い

2回連載
Part 2

ピッコロトランペットからE♭/D管までの賢い使い方！

知っているようでよく分からない特殊管トランペットの世界。この世界で圧倒的なシェアを誇るシルキーの特殊管を様々に使いこなす二人に、各トランペットの賢い使い方を聞いた（前号に続く後編）。

記事協賛：株式会社 グローバル

ピッコロトランペットの A管とB♭管の使い分け

——ピッコロトランペットではB♭管とA管をどのように使い分けていらっしゃるのですか？

高橋 バロックの作品にはD-Durの曲が多いんです。二長調は神聖な調とされ、トランペットも同じく天上界の天使や神に一番近い楽器でした。「トランペットが鳴り響いて死者が蘇る」だとか……。バッハなんかもスコアの最上段にトランペット・パートを置いています。

内藤 その下にオーボエが来て、木管楽器、弦楽器とつづく。

高橋 当時はD管のナチュラルトランペットが主流で、そうした調性はA管だと吹きやすいわけです。D-Durならフラット1つで指が楽になるから。

内藤 同時に音程も楽になる。

高橋 そう。ですからバロック時代の作品などはほとんどA管で演奏します。

内藤 知り合いの中国のトランペット奏者から聞いた話だと、中国では以前A管を使う文化がなく、全部B♭管のピッコロで吹いていたそうです。国や地域によって違うかも知れない。

高橋 セルゲイ（ナカリャコフ）がそうだよ。彼も全部B♭管で吹く。彼にはフインガリングのストレスなんてないから（笑）。

内藤 A管で吹くストレスの方が大きいんでしょね。ただ、バッハなどで1番が

●対談

高橋 敦

富山県生まれ。洗足学園音楽大学短期大学を経て洗足学園音楽大学卒業。トランペットを津堅直弘、関山幸弘、佛坂咲生氏の各氏に師事。第65回日本音楽コンクール1位、第13回日本管打楽器コンクール1位。新星日本交響楽団（現東京フィル）を経て1999年に東京都交響楽団首席。宮崎国際音楽祭、霧島国際音楽祭、セイジ・オザワ松本フェスティバルなどへ定期的に参加。ソリストとして国内外のオーケストラや吹奏楽団と共演。ミュンヘンARD国際音楽コンクールの審査員も務める。洗足学園音楽大学客員教授、東京音楽大学講師。

内藤知裕

1993年第10回日本管打楽器コンクール4位。大学在学中に東京都交響楽団に入団。1995年東京藝術大学卒。第65回読売新人演奏会出演。1996年日本音楽コンクール3位。1998年ITG主催E.スミス国際コンクールファイナリスト。2002年文化庁芸術家在外研修員としてシカゴに留学。これまでにトランペットをW.スカーレット、杉木肇夫両氏に師事。現在、東京都交響楽団トランペット奏者、エマーソン・プラス・クインテット・メンバー。尚美学園大学・大学院、尚美ミュージックカレッジ専門学校コンセルヴァトールディプロマ科講師。

ピッコロトランペットでは1番がA管で吹いているのに2番がB♭管だと音程は壊滅的になる。

A管で吹いているのに2番がB♭管だと、音程は壊滅的になる（笑）。

高橋 そんな経験あるの？

内藤 僕が1番をA管で吹いたとき、2番の人が「急に頼まれて指が分からないからB♭管でやりたい」と。合わないだろうなと思ったら、案の定台わなかった。それで何とかA管で吹いてもらって。

学生にもこの辺をきちんと教えないと、仕事で迷惑をかけることになります。

◎東京都交響楽団首席トランペット奏者

高橋 敦

Osamu Takahashi

◎東京都交響楽団トランペット奏者

内藤知裕

Tomohiro Naito

ピッコロトランペットのように管が短くなると、楽器の構造的な音程の問題がより顕著に出るのかも知れませんがね。

高橋 倍音列の上の方で吹くからね。音域が何しろ高いから。そうした問題とは別に、ソロなどでは、僕はあえて学生たちに（ピッコロの）B♭管で吹かせることもあります。B♭管で吹くのとA管で吹くのと、この半音の差って学生たちには結構大きかったりする。A管ですと半音上を吹くような感覚で吹き続けるよりも、B♭管で吹けばより楽に音を並べられますから。バロックならフインガリングも

世界のトランペットシーンで
Schilke

▲シルキーの特殊管を手に……左が高橋敦氏、右が内藤知裕氏。

そう難しくないし。



シルキーのピッコロトランペットはなぜ人気があるのか？

——ところで、シルキーのピッコロトランペットは世界で圧倒的なシェアを誇ります。シャンクはコルネットシャンクですが、他の各メーカーのシャンクは？

高橋 基本的にトランペットシャンクの方が多いと思います。最近はシルキーにもトランペットシャンク用のパイプが付いて来ますけど。

倉林(グローバル担当者) シルキーのピッコロトランペットはコルネットシャンクで設計されておりますが、ニーズに合わせてトランペットシャンクのマウスパイプ(構造上A管のみ)もご利用いただけます。

高橋 マウスピースそのものも、コルネットシャンクの方が当然ながら軽くなります。マウスピース部分に重みがないので息の返りが強くない……それがシルキーの大きな特徴かな。抵抗感を利用してバリーと吹きたい人もいるかも知れないけれど、そうしたセッティングだと優しく吹いた時に返りがすごく大きく感じられる。吹くのはコルネットシャンクの方が楽だと思うし、その発想は素晴らしいですね。

内藤 あとは、音程が良い、というのが人気の一番の理由でしょう。

高橋 そこでですね。普通に音階が並ばない楽器もありますから。

内藤 ピッコロトランペットは管が短いのでコントロールもしにくい。ピッコロで普通に音階が吹ける、というのは画期的なことだったんです。もちろん、ハーセスさんがシルキーを使ったりした影響も

コルネットシヤンクの採用でピッコロトランペットの吹きやすさを劇的に変えたシルキー。

大きいでしょうが。

高橋 ミュンヘンコンクール出場者のほとんどがピッコロはシルキーだった話を前にしましたが(前号参照)、彼らの先生たちもシルキーが多い。ふだんロータリートランペットを使っている人たちでも、ピッコロはシルキーに持ち替える人たちが向こうにはかなりいる。

内藤 プレートは何が一番多かった？

高橋 やはりシルバー。世界的に見ても多いのはシルバーですね。

内藤 日本はゴールドプレートが非常に多いですね。僕はアメリカの留学時代にゴールドのピッコロを見たことは一度もなかったけれど、日本のコンクールではほとんどみんなゴールドですからね。

高橋 確かに見た目も豪華で、オルガン



ピッコロトランペットや特殊管への取り組み方

——ピッコロトランペットをマスターするために何が一番大切ですか？

高橋 息です。息の使い方、吐き方。正しい奏法で吹くのが一番大切なことです。

の前で吹くようなときゴールドの方が光ってきれいに見える(笑)。向こうでも、ガボール(タルケウイ)は金だし、ベルリンフイルもゴールド(シルキー)を買ったそうです。

倉林 ちなみに、ゴールドプレートの場合、下地のシルバーを基本的に薄くかけますので、地金の音に近いのは実はゴールドプレートの方ですね。



▲上から、ピッコロトランペット P5-4 GP、ピッコロトランペット P7-4 GP、G1L SP (G 管)、同モデル付属 F 管用ベル。

▲上から高橋さん所有の E3L GP (E♭ 管、#3 ベル仕様)、E3L SP (D 管)、同モデル付属の E♭ 管用ベル、内藤さん所有の E2D GP (D 管)。



▲4月5日、東京の渋谷区文化総合センター大和田・さくらホールで行われたザ・シルキー・ファイブのコンサートから。左から高橋敦、川田修一、野田清隆（ピアノ）、内藤知裕、伊藤駿（松山明の代わり出演）、田中敏雄の各氏。2021 ツアーの最終公演で大勢の聴衆が詰めかけ、人気のほどがうかがえた。

——息の量の問題ではなく？

高橋 量ではなくて、息の吐き方の問題です。どのくらいの量を、どのくらいのスピードで、どのくらいの広がり方で、どんな方向性で……という。これはB♭管やC管で高い音を吹く場合と同じです。ピッコロを吹いたあと「普通の楽器で高い音が出るようになりました」という生徒はいっぱい見て来ています。

内藤 息を「使う」を、「入れる」と思ったら裏切られます。そのへんのバランスを自分で見つけないといけない。僕は長いこと苦しみました（笑）。

——ピッコロが得意な人とそうでない人がいると思いますが。

内藤 高い音が得意な人、低い音が得意

な人がいるのと同じことです。

高橋 ピッコロには大切なレパートリーがたくさんありますから、得意・不得意の問題は別にして、どんな人でもピッコロは避けて通れません。ピッコロを吹くことで、得意だと思っていたことがさらに得意になる、あるいは、苦手なことを少しでも克服できるようになる、ということとは多い。いずれにしろ、必ず何か新しいことが見つかります。

内藤 素晴らしい曲がたくさんありますから、トランペットを吹くならそうしたものに触れないのはもったいない。

——ピッコロ以外の特殊管についても、同じようなコントロール能力が求められるわけですね。

高橋 B♭管で吹いた時、五線よりちょっと上くらいの音域で息が詰まるとか、吹きづらいつか、そう思っている人たちが、例えばE♭管を吹くことで息の入れ方やアプローチの仕方を学べる、ということも多いです。

内藤 僕の場合は、こうした楽器に苦手意識があるからこそ、逆によく使うようにしています。普通の人とはアプローチが違いますが、こうした道具があればこそ、いろんな曲にチャレンジすることが出来ていると思っています。もともと、D管やG管、F管を使うことは滅多にありませんけどね。

高橋 特殊管のコスバは悪い（笑）。でも、例えばいつもやっているエチュードをこうした楽器でやることで得られるものは、お金では買えない価値があるかも知れない。

——仕事で元を取ろうとすると何年かかるか分からないけれど（笑）。

内藤 E♭管なんてソリストじゃないと元がとれないでしょう（笑）。

——アマチュアの人たちの方が持っていたりして。

内藤 元を取ろうとは思わないでしょうからね。

——日頃からこうした楽器で練習するのですか？

内藤 僕は仕事がある時だけそれに合わせて練習しますが、人によつてはすべての楽器を毎日練習する人もいます。

高橋 クリス・マーティン（ニューヨーク・フィル首席）などは、時間があればやっているので。僕はピッコロでは練習しない。ピッコロの曲を練習するときは、い

つもB♭管かC管でオクターブ下げて練習し、当日しかピッコロは吹かない。ピッコロで練習するとすごく疲れるから。ハイドンやフンメルなどもE♭管の楽譜をそのままB♭管で吹いて練習する。

内藤 僕もB♭管で練習することが多いですが、頭に音があれば指は動くので、全部読み替えて実音で吹きます。指が変わるんですが問題ない。

高橋 長い管だと息の量をたくさん使うので、しっかりと息を使った練習ができる。

内藤 長い時間練習できるし。

高橋 そうそう、ピッコロだと1時間も吹いてられないからね。

内藤 ピッコロを練習し過ぎてレッスンでボロボロになる子がいる。本当に音が

ピッコロトランペットや特殊管を吹くことで新しいことが必ず学べる！

出くなりますから。

高橋 基本はB♭管で練習するんだと言つと「そうなんですか！」って。

——逆にピッコロを練習して鍛えられたり養われたりすることは？

高橋 しっかりとアンブシュアを支えないと高い音は出ないので、口の周りの筋肉の使い方などはオクターブ下げて練習しては学ばせんね。

——よりコンパクトなアンブシュアになる？

高橋 コンパクトと言うと語弊がありますが、管が短いから抵抗を強く感じますが、コンパクトに思うと、余計に息を殺してしまふ。かと言って、高い音だからパワーが必要だと思つても、全然鳴りません。——バズィングとの兼ね合いではどう

ですか?

高橋 結論から言うと、B♭管でその音域が出せないと、ピッコロでも出せないかなと思いますね。

内藤 楽器やマウスピースが小さくても、息を通して唇が震えるのは同じ。そのサイズ(アパチュア)が楽器に合わせて変わっていく。厳密に言えば、B♭管とC管でも少しは違うと思うけれど、でも、このサイズにすればその音が出るというものでないと思うので。

高橋 簡単に言えば、振動している部分をより真ん中に集中させるわけです。だからマウスピースの口径が小さい方が楽になりますが、小さくなる分、慣れないと息が詰まった感じになる。詰まっちゃうから息を殺してしまうと、振動もなくなってしまう……そのバランスですね。

内藤 ある程度は息を通さないといけないけれど、やり過ぎてしまうと力が入って逆に出ていかない。そのバランスを探



Osamu Takahashi

していく。

高橋 そうしたバランスを見つけることが、長いB♭管やC管を吹いたときに生きて来るんです。



ザ・シルキー・ファイブは
特殊管ワールド!

——ザ・シルキー・ファイブではシルキーの特殊管を駆使しているらしい。

高橋 田中君以外は全員、ピッコロ、E♭管、D管などいろいろ使います。

内藤 同じメーカーなので持ち替えやすい。1本だけでもやろうと思えば出来ると思うけれど、せっかくこれだけ素晴らしい楽器が揃っているし、音色のバラエティも楽しめるなら、どんどん使おうと。高橋 様々なシルキーが20本並んで、ステージは壮観です!

内藤 僕は今回のツアーでも、使う楽器を決めています。毎回、結果を検証しな

せつかくこれだけ素晴らしい楽器が揃っているし、音色の変化も楽しめるなら、どんどん使おうと……

がら次に使う楽器を考えている。もう少しD管の活躍の場を増やしてみようかと、G管を使わずにピッコロに替えてみようかと……その度に読み替えが変わるから、人によってはストレスがかかるかも知れないけれど。

——内藤さんはバツと替えられる?

内藤 G管、D管への持ち替えはちょっと時間がかかるかな。

——F管はどんな時に?

高橋 マーラーのin Fの楽譜をそのまま吹ける……と言っても、そんな人最近はいないでしょうけど。F管だとピッコロの音域に近づくので、G管で吹いてもピッコロで吹いても変わらないのかな。

内藤 今のオーケストラにF管を使うシチュエーションはないですね。G管もそ

うだという人もいるかも知れないけど。でも、チャンスがあったらF管も吹いてみたい。

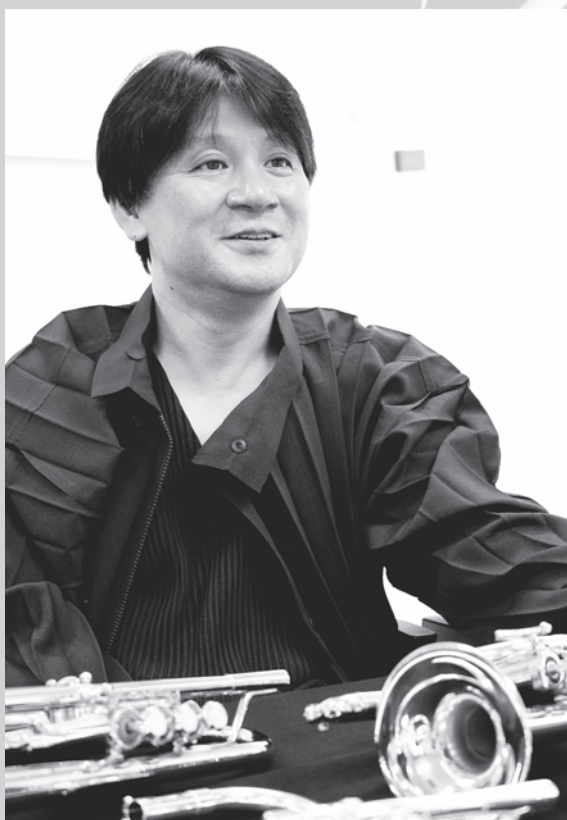
——吹いたことないんですか?

内藤 G管歴は長いけれど、F管は吹いたことないです。吹いてみれば音色が全然違って面白いかも知れない。そもそも僕がG管を使い始めたのは、憧れのスメドヴィックが使っていたという、ただそれだけでしたから。

高橋 要するに、G管を使いたかっただけなのね(笑)。

内藤 そう、ただそれだけ。

——次回のザ・シルキー・ファイブ公演ではぜひF管も!



Tomohiro Naito